

笑ってごらん

第 647 号 2019. 2. 20 発行

～今日の格言～

もう陽が昇るね。そろそろ行かなきゃ。
いつまでも同じところにはいられない。

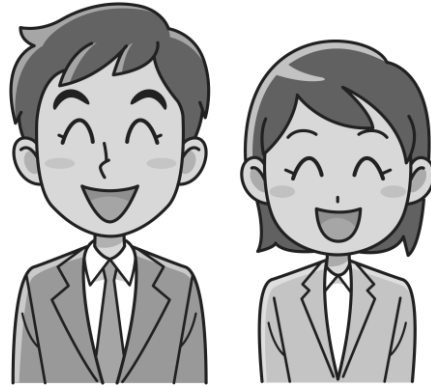
(浜崎あゆみ)

卒業に向けて様々な活動が始まっている。

先日看護師国家試験を受験し終えた看護学科専門課程2年生は昨日、「スーツの着こなし講座」を受講した。他にも「社会人としてのマナー講座」や「消費者教育教室」など社会人になるにあたって知っておいた方がよい事柄についての勉強会が実施されている。

メディカルシステム科3年生および総合福祉科3年生も昨日「身だしなみ講座」を受講。これまでは資格取得に関する勉強に集中して取り組んできたが、卒業までの期間は「働く」という視点を加えて過ごして欲しい。

加えて本日より卒業式の練習が開始される。有終の美を飾ることができるよう望む。



『二十四節気』とは半月毎の気候の変化を示しているもの。これをさらに約五日おきに分け、気象の動きや動植物の変化を知らせるのが『七十二候』。ちなみに『気候』ということばは、この「節気」と「候」からできているといわれる。

昨日19日からは二十四節気『雨水』、七十二候『土脉潤起（つちのしやううるおいおきる）』である。雨水は、冷たい雪から段々とあたたかな雨に変わる頃と言われている。また、土脉潤起は、その雨で土が潤ってくる時期である。

この冬は、鹿児島では降雪もなく、暖かな日も多く穏やかであったが、東北や北海道では豪雪に見舞われ、ホワイトアウト現象による交通事故もたくさん発生した。

本格的な春はまだ先であるが、雨水の頃から雪解けも進み、草木が芽生え始めることを思えば、今後は雪崩被害に警戒が必要と言える。

二月の雪、三月の風、四月の雨

・・・これらが美しき五月をつくる

以前どこかで目にし、心に残る詩である。

厳しい気象条件が重なり、辛い思いをすることもあがるが、それらの後には美しい季節が待っていることを表している。

人の世も同じようなものかも知れない。



いま、校内には白梅の花が咲いている。

前身の加世田女子高等学校校歌ならびに看護学科の歌の冒頭に歌われ、現在も女子寮や附属幼稚園の名前として受け継がれている「しらうめ」。

その花の持つ柔らかな存在感は開学当初から本学園の象徴として位置づけられてきた。

いましばらく花を愛で風情を楽しもうではないか。